

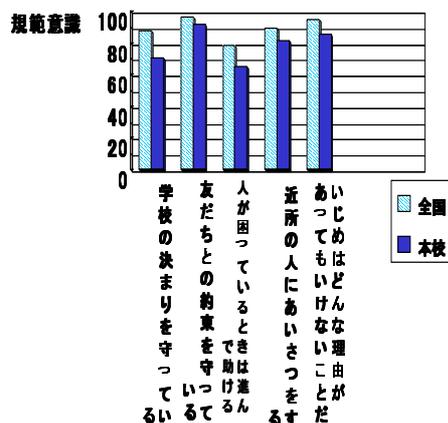
# 学ぶ楽しさ分かる喜びを子どもたちに

平群町立平群西小学校

自尊心が低く、「どうせやってもできない」と思い込んでいる子どもたち。学習意欲がもてず、休み時間が終わってもなかなか教室に入らない子どもたち。まず教職員が一丸となって生活指導に取り組んだ。チャイムに合わせて教室に入るようになったとき、次の取組は、授業が楽しくて分かったという喜びがもてるように育てることだった。

## (1) 学力調査活用アクションプランを活用した取組の実際

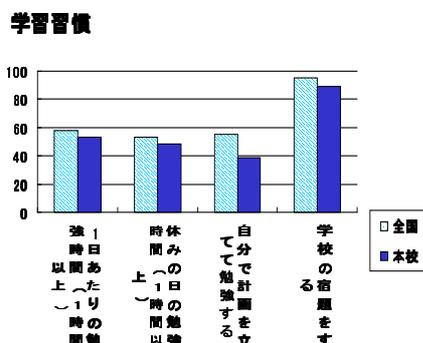
### ① 学習規律・規範意識の確立



「児童質問紙」(過去4年間の平均)

まず一つのことを守るように促した。「チャイムがなったら、教室に入る。」という学校のきまりを守るよう教職員みんなで呼びかける。授業の始まりは、運動場で遊んでいないか確かめ、授業中は廊下に児童がいないか気配に耳を傾ける。教室に入らない児童を見付けたら、数人の教職員で声をかけるようにした。人が集まる場では、「話を静かに聞く」ことに重点をおいた。整列の仕方や号令のかけ方などを工夫し、整然とした雰囲気になってきている。教職員一丸となって取り組んできた成果である。年間を通じて「あいさつをする」「きまりを守る」「時間を守る」の三つを生活目標として、何度も繰り返し呼びかけている。

### ② 基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化



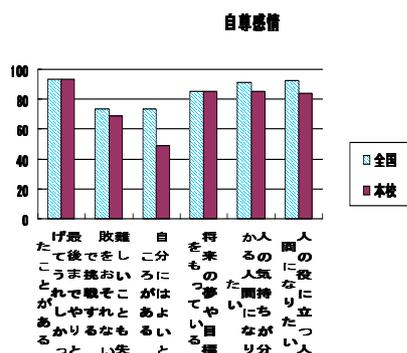
「児童質問紙」(過去4年間の平均)

学校での児童の様子を保護者や地域の方に知ってもらい、よりよい生活習慣が身に付くように家庭にも協力をお願いした。今年度のフリー参観は三日間。児童の様子を保護者同士で知らせ合ったり、地域の方から連絡してもらうことができた。

「西っ子の学校生活」や「家庭学習の手引き」を家庭訪問時に配布。毎年内容を見直し検討する。教職員一致した考えのもと、学校での決まりや家庭での学習時間、生活の仕方などについて保護者に直接話し、理解と協力を得ている。

宿題の提出率もよくなった。家庭や地域との連携の成果である。

### ③学習意欲の向上



#### 「児童質問紙」(過去4年間の平均)

中学校教員による「出前授業」を3月に行う。中学校の授業に期待と意欲、安心感をもつことができた。

委員会活動や集会活動では、全校児童の前で発表したり集会を企画運営したりする機会を多くもち、やり遂げることで自信をもつことができた。大とんどやゲームをする西っ子大会では、地域のお年寄りとの交流もあって、児童の態度がとてもよくなっていることやがんばっていることをお年寄りに褒めてもらうことができた。高学年によるクリーンキャンペーンも毎年行っている。通学路の清掃活動を保護者や地域の方と一緒にすることで、新聞で紹介してもらったり地域の人に認めてもらったりして自尊感情を高めることができた。

### ④基礎学力の向上に向けた取組

- ・朝学習 (あすなろタイム)

毎朝始業前の15分間、読書・計算問題(百マス計算)・漢字練習などに取り組む。そのため、職員の朝の打合せは短時間で終わるように工夫し、担任は朝学習の指導に当たる。教員は各クラス2人体制で入り、個別指導も十分できる。時間は短い、集中して取り組んでいるので静かな学習風景である。計算は速くできるようになったという結果も出ている。

- ・夏休み学習教室

夏休みのプール開放日に合わせ、希望者を対象に補充学習を行っている。少人数なので分かりにくいところも自分で質問できることや複数の教員が指導に当たるので個に応じた学習ができることになり、理解も深まった。

### ⑤授業実践

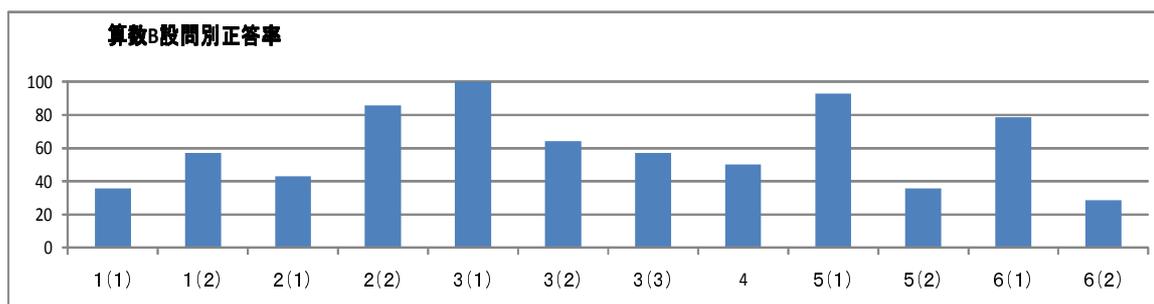
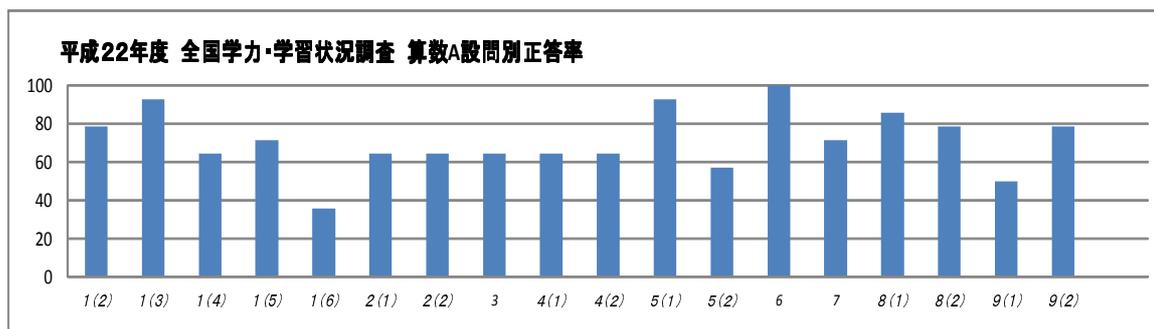
- ・アサーショントレーニング

表現の仕方が分からず、暴言を吐いてしまう、人を傷つける言葉が口から出てしまう児童。その一方で、ガラスの心もち友達の一言で傷つき、学校へ来にくくなってしまいう児童もいる。相手を思いやりながらも、自己の意思をはっきりと伝える方法を教える必要があった。右の写真はアサーショントレーニングの研修を生かした授業である。教員の働きかけで互いが気持ちよく過ごすには、どんな言い方をすればいいのかについて、互いに意識するようになった。



・授業の改善

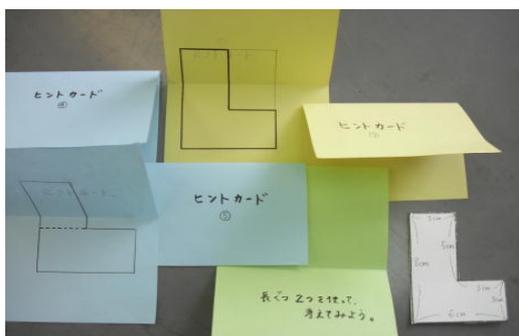
テーマ「言語活動を効果的に取り入れた授業の在り方」



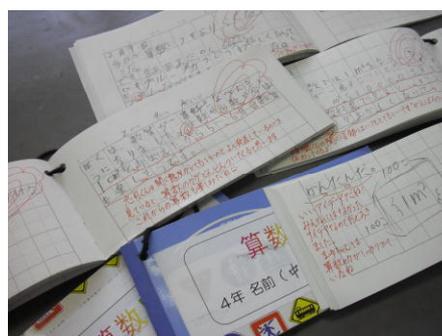
全国学力・学習状況調査の算数Aでは、加法と乗法の混合した整数の計算問題 1(6)、台形の面積 5(2)を求める問題ができていない。計算の仕方や面積を求める公式が定着していなかった。計算の反復練習を行うことで克服していった。算数Bは、本校の平均正答率は全国平均正答率より高く、算数の活用する力が優れていると考えられる。その中で、設問 5(2) 6(2)のように数学的な思考を働かせ、記述式で解答していくことの正答率がかなり低い。そこで、算数科の授業の中で、第6学年では数学的な思考を表現すること、第4学年では課題について自力解決した内容を友達に伝えることを取り入れ授業公開した。

○研究発表会での授業公開

【第4学年「面積」】 課題 「長靴の面積の求め方をたくさん見付けよう」  
自力解決した内容をペアや4、5人グループに伝え、考えを明確にしていく。



ヒントカード



算数日記

自力解決するとき、自力で導き出せるように9枚（1枚は、その場で書き込んで渡せるように白紙）の個に応じたヒントカードを用意しておいた。机間指導しながら、個別に渡す。また、算数の授業の終末には算数日記として一言感想を書く時間を確保している。自分がどのように考え、何が分かって何が分からないのか明確にするためである。学習の振り返りをするとともに、学級の中で発表されることで学習意欲を育て、自信をもたせる。

【6 学年 算数「ハノイの塔」】 課題 「カメ吉親子のお引越し」

親ガメから子ガメの順に重なったカメの親子。あ の池から別の池へ引っ越しさせる。



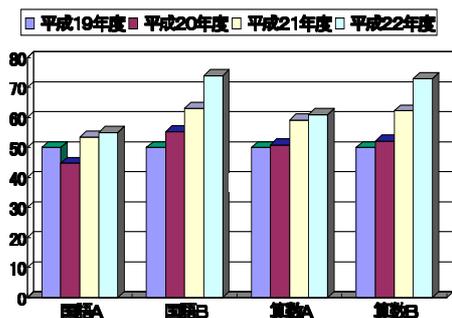
電子黒板を活用。スライド式に提示することで動きがよく分かる。



手作り教材。カメの親子のパズルと池の絵カード

児童の実態に合わせ、興味を高める場の設定、教材や提示の工夫で算数の授業への意欲付けができる。自分なりに考えをもって解決するようにヒントカードを用意するとともに、算数日記を授業の終末に記入する時間を確保する。

(2) 成果について



①本校の全国学力・学習状況調査の推移は、昨年同様に伸びを示し、特に国語Bや算数Bは10ポイント伸びている。算数Bは全国平均を上回り、年度末の再検査では国語Aと算数Aも全国平均を1.5～2ポイント超えた。児童質問紙の学校のきまりを守る、あいさつをするなどの規範意識や自分の将来に希望をもち自分を肯定する感情も全国平均と大差ない。基本的な生活習慣

も定着しつつあり、行動も落ち着いている児童が多い。家庭の協力もあって、準備もよくできて学習に臨む態度がよい。学習指導に重点をおくことができた。

②集会や授業で「話す力」「聞く力」が付いてきた。静かで落ち着いた雰囲気である。委員会活動でも話がよく分かるように絵などを用意し、言語活動に取り組んだ成果が表れてきている。また、自分たちもやればできるという自信も出てきている。

(3) 課題について

①長文を読んで意見をまとめる問題に無解答や誤答が多い。県学力診断テストにも表れていたが、国語では長文を読んで設問に答える問題の誤答が多い。算数では、筆算に変える計算に誤答がある。単位の換算も難しい。計算練習の仕方を検討する必要がある。また、これからも読書タイムの充実を図り、長文を読みこなす意欲と力を付けなければならない。

②将来に夢がもてるよう、キャリア教育をさらに進め、いろいろな職業があることを知らせる。

③小学校で芽生えた学習への意欲が中学校、高校へと進む間に衰退しないよう上級学校へ進学しても学習意欲が持続できるような取組をしていく。

④先進校視察や交流で得た情報を全体で共通理解して具体的に進める必要がある。学年間の児童の実態に差があり、それは、家庭環境の違いでもあるが、教職員で協力し合い、どの学級も学習に向けて意欲的に取り組めるようにしていきたい。